

(別紙1-1)《会派用》

2022年 10月 28日

狭山市議会議長  
太田博希 様

会 派 名 公明党  
代表者氏名 綿貫 伸子



## 研 修 会 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。



代 表 者 綿貫 伸子 様

研修者(代表)氏名 広山 清志

## 研 修 会 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 期 間 2022年 10月 12日 ～ 2022年 10月 14日 (2泊3日)
- 2 研修会名  
.....長崎原爆資料館研修  
.....第84回 全国都市問題会議 個性を生かして「選ばれる」まちづくり
- 3 研修会主催者  
.....長崎原爆資料館 → 自主研修  
.....全国都市問題会議 → 全国市長会、公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所、  
.....公益社団法人日本都市センター、長崎市
- 4 開催場所  
.....長崎原爆資料館 全国都市問題会議→長崎市出島メッセ長崎
- 5 研修会参加人数 2 人  
参加者は次のとおり  
.....齋藤誠 広山清志
- 6 研修会スケジュール  
.....10月12日 移動日 長崎原爆資料館研修  
.....10月13日 終日：全国都市問題会議研修  
.....10月14日 午前：全国都市問題会議研修 午後：移動日
- 7 研修会概要  
.....長崎原爆資料館展示 約2時間の展示見学  
.....全国都市問題会議  
.....10月13日 基調講演、主報告、一般報告3件  
.....10月14日 パネルディスカッション コーディネーターと5名のパネリスト  
.....によるディスカッション

(別 添)

研修会概要

## 研修会概要

### 長崎原爆資料館

研修日：2022年10月12日 14:00～16:30

住所：長崎県長崎市平野長7-8

#### 資料館内容

原爆投下前の長崎の様子から原爆の投下、街並みや、被爆者、原爆による物質的な被害状況などを現物や写真、動画で展示。

時間軸では原爆投下までの開発進捗や、原爆投下後の世界の核保有や実験の歴史、核廃絶への取り組みなども展示していた。(添付資料参照)

#### 考察

長崎らしく最初の展示物は「浦上天主堂」の被爆直後の巨大な建設物被害のレプリカだった。その他、爆風や熱により曲がった鉄骨や、爆風で粉々になったガラス等の展示があったが、インパクトがあるのは当時の人体のやけどや、死傷者の写真などが原爆の凄まじさ、戦争の悲惨さを訴えるにはモノより人への被害がより心に響いた。

特別展として体験者の絵とコメントがあったが、絵は素人でもあるので上手いとは言えないが多くのコメントでは「あの日の事は忘れられない」と記述があり、まさに、筆舌に尽くしがたいほどの体験であった事は想像に難くない。

また同時に修学旅行の見学と重なったが生徒の中には「見ていて気持ち悪くなった」と言っている生徒もおり、原爆資料館としてはこの展示内容で正しい証拠でもある。戦争関係の展示は、もう2度とこのような風景を見たくない、このようなことを繰り返したくない、という気持ちになってもらえれば資料館として成功と思います。

しかし、世界全体として核兵器が減少している訳ではなく、最後の展示にウクライナに対してロシアが「核兵器の使用も辞さない」とのコメントがあることを紹介しており、核兵器の削減や、草の根的平和活動として、このような施設の重要性がさらに増していることは間違いないと感じた。

第 84 回全国都市問題会議  
個性を生かして「選ばれる」まちづくり  
～何度も訪れたい場所になるために～

研修日程

第一日 10月13日(木) 9:30～17:00

第二日 10月14日(金) 9:30～11:30

概要(講演者の経歴、報告内容詳細については別冊資料参照)

一日目

○基調講演：民間主導の地域創生の重要性

株式会社ジャパネットホールディングス代表 CEO 高田旭人 氏

巨大プロジェクトのハード、ソフト面を民間の力を生かした活用方法で運営し、地域にもさまざまな形で還元できるプロジェクトの紹介

○主報告：長崎市の魅力あるまちづくり

長崎市長 田上富久 氏

長崎という地域性を生かしたまちづくりの紹介・報告

○一般報告：地域との新しいかかわり方・関係人口

島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美 氏

関係人口を増やす事ができた事例と、考え方の紹介、報告

○一般報告：ビジョンを生かしたまちづくり

山形市長 佐藤孝弘 氏

市としての明確なビジョンを定め、それに対応した具体的な施策によるまちづくりの事例、考え方の報告

○一般報告：「交流の産業化」を支える景観まちづくり

一般社団法人地域力創造デザインセンター代理理事 高尾忠志 氏

人々が期待する「高次の欲求」の説明や、それにこたえることができる、まちづくりに必要な考え方や、人材づくりについての提案と報告

## 二日目

### パネルディスカッション

【テーマ】個性を生かして「選ばれる」まちづくりに  
～何度も訪れたい場所になるために～

各パネリストのタイトルは以下のとおり

- ・「選ばれる」まちづくりに向けた都市自治体のアプローチ
- ・人が人を磨き、輝く人が人を呼ぶ
- ・ワーケーションの意味の拡張と変異
- ・人は人に会いに行く！（コトではなく、人と人が合うことが重要）
- ・人口減少先進市の挑戦 地域の工夫
- ・清酒発祥の地・伊丹

### パネルディスカッション概要について

- ・日本の人口減少は避けられない。自治体が移住サービス合戦をしても一時的なパイの取り合いとなる。
- ・移住だけでなく、関係人口を増やすことが今後は必要
- ・関係人口＝「選ばれる」まちづくりは箱ものや、イベントも重要ではあるがそれ以上に人々のコミュニケーションが一番のカギ
- ・イベントも開催するだけでなく、準備段階からの参加でより魅力が増す
- ・「選ばれる」まちづくりには、今までどおりではだめ。人が知恵を絞ること

### 全国都市問題会議全体の考察

「選ばれる」まちづくりのためには、全ての人に同様なサービスを・・・だけでは魅力の創出が困難であり「高次の要求」への対応が困難。また魅力的なハコやイベントだけでなく、それに携わる人や途中のプロセスの連携、人どうしの密接な関係があれば関係人口の増加につながっていくことを学んだ。

住みたいまち No. 1 や転入率の高い自治体が紹介される場合、現状では転入した際のサービスが充実していることが報道されている事が多い。しかし、上記にあるとおり、それだけでは各自治体のサービス合戦となり、疲弊する自治体もでてくる。また転入時はいいがその後、そのサービスが終わると転出となる可能性もあり、まさしく「パイの取り合い」となりかねない。

「選ばれる」まちづくりは、必ずしも転入をターゲットとすることではない。例えば、まちづくりのプロセス（イベント）において、他の自治体からも参加することで人の移動（共通化）により、関係人口を増やし、人間関係が進むことでさらに次のイベントで関係人口増やしていくという正のスパイラルを作り上げるものと理解することができた。

またまちづくりも、人が知恵をしぼり、工夫することで、同じ予算でより魅力的なものができることや、関係人口が増える要因は、イベント目的だけでなく、人と人がいい出会いができ、また会いに来る、という目的でさらに、持続し拡大する、という事を学ぶことができた。

そして改めて、「選ばれる」まちづくりのためにも、人材育成の重要性、事業の縦割りだけではないアプローチの重要性を認識する研修となった。

最後に研修参加者から 2 件質問があったが、どちらも埼玉県議員であり、質問内容も「自分たちの市に魅力があるとは思えないがどうしたらよいか？」という趣旨の質問であった。改めて埼玉県、そして狭山市の魅力について考えさせられる機会にもなった。

以上